

道徳教育マネジメント

－道徳科の特質を生かした指導と評価－

赤堀 博行

道徳教育をどのように進めるのか

道徳教育は、「道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」

- 道徳科の道徳教育における中核的な役割や性格を明確化
- 道徳教育は、道徳科だけで行うものではないことを確認



道徳教育は、道徳科だけで
行うものではないんだね！

各教科でも、外国語活動でも、
総合的な学習の時間でも、特別
活動でも行います！



学習指導要領の各教科等でも
道徳教育の充実が示されてい
るのでしょうか？

学習指導要領の
指導計画の作成と内容の取扱い
に明確に示されましたよ！



「第2章各教科」の第1節から第10節、「第4章外国語活動」、「第5章 総合的な学習の時間」、
「第6章 特別活動」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」

第1章総則の第1の2及び第3章特別の教科道徳の第2に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科
などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、〇〇の特質に応じて適切
な指導をすること。



各教科等、学校の教育活動全体
で道徳教育を充実させるため
には、全体計画の役割が重視され
ますね？

道徳科以外で、いつ、どのよう
に道徳教育を行うのかを明らか
にする必要があります！



第3章道徳 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

道徳教育の全体計画の作成に当たっては、
児童や学校、地域の実態を考慮して、
学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、
第3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏まえた
各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における
指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。

教育活動全体を通じて行う道徳教育の進め方

学校の教育活動全体を通して行う道徳教育は、総則に示されている目標を目指して行う。

① 各学校の具体的な道徳教育の重点目標を設定する

〈参考にするべき事項〉

教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、
教育行政の重点施策、

目指す子ども像を
明らかにすることが
大切です！



例)相手のことを思いやり、しっかりとした規範意識をもった人間に育てほしい

② 道徳教育の重点目標のポイントを明確にする

例)「思いやり」、「規範意識」

③ 道徳教育の重点目標のポイントに関わる道徳の内容を明確にする

例)B 親切、思いやり C 規則の尊重

④ 当該の道徳の内容に関わる道徳科以外の指導を明確にする

1年生は生活科の、
公園にある遊具を通
して公共心の指導を
します！



2年生は、体育の
ボールゲームで規
則尊重について指
導をします！



3年生では、市民が
利用する施設を調
べる学習で、公德
心を考えさせます。



4年生は、特別活動
の遠足の指導で、公
衆道徳について指
導をします！



5年生では、総合的
な学習の時間の課題
解決で公共について
考えます。



6年生は社会科の
地方公共団体の働
きで公共について
指導をします！



⑤ 道徳科以外の指導の内容及び時期を明確にする (例：一覧表)

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	特別活動
1年					通学路の様子からきまりについて考える(6月)		遠足での公共交通の利用の仕方学ぶ。(5月)
2年			十進位取り記数法を基にきまりについて考える(6月)		公共施設を利用して公衆について考える(10月)		遠足での公共交通の利用の仕方学ぶ。(5月)
3年		主な公共施設の働きを通して規則について考える(6月)	乗法に関して成り立つ性質からきまりについて考える(10月)				地域清掃を通して公衆について考える(11月)
4年		農産物の地理の学習を通して公衆について考える(6月)					地域清掃を通して公衆について考える(11月)
5年		情報化社会の様子から社会規範について考える(11月)					自然教室での生活から規範について学ぶ(5月)
6年		地方公共団体の働きから公衆について考える(10月)					修学旅行を通して公衆について考える(10月)

学年	国語	算数	生活	音楽	国語工作	体育	特別活動
1-1年							
1-2年							
1-3年							
1-4年							
2-1年							
2-2年	グループで話し合ってお互いの気持ちを伝える(6月)		防災の日にあわせて行動する(9月)	思い思いの歌を相手に伝える(6月)	思い思いの作品のよいところを発表(11月)	相手のことを考えておしやわらう(11月)	相手のことを考えておしやわらう(11月)
2-3年							
2-4年							
2-5年							
2-6年							
3-1年							
3-2年							
3-3年							
3-4年							
3-5年							
3-6年							
4-1年			十進位取り記数法を基にして考える(6月)				
4-2年							
4-3年							
4-4年							
4-5年							
4-6年							

⑥ 重点以外の道徳科以外の指導の内容及び時期を明確にする (例：一覧表)



学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の内容や進め方は、学校の実情によって違います！

学年	国語	算数	生活	音楽	国語工作	体育	特別活動
1-1年			日常生活の中からの整理を見付け出す(5月)	自分自身の成長を振り返る(6月)	自分の歌に注意して歌う(6月)	心の安全に気をつけて運動する(6月)	持ち物の整理などしっかりする(6月)
1-2年							
1-3年							
1-4年							
2-1年	算数に合わせた読み書き(9月)		地域の人々に挨拶の言葉を送る(6月)	自分の歌に注意して歌う(6月)	思い思いの作品のよいところを発表(11月)	相手のことを考えておしやわらう(11月)	思いやりや言葉遣いを考える(5月)
2-2年	グループで話し合ってお互いの気持ちを伝える(6月)		防災の日にあわせて行動する(9月)	思い思いの歌を相手に伝える(6月)	思い思いの作品のよいところを発表(11月)	相手のことを考えておしやわらう(11月)	
2-3年	作文を添削して感想を伝える(10月)		読書を楽しむ(10月)	友達と一緒に歌を合わせる(6月)	友達と協力して発表する(11月)	友達と協力して発表する(11月)	自然教室での生活から規範について学ぶ(5月)
2-4年			通学路の安全を守る人々に感謝を伝える(9月)				
2-5年							
2-6年							
3-1年							
3-2年	科学的な本の内容を理解して読む(11月)		身近な自然から自然の美しさを伝える(10月)		身近な自然(和歌)の歌について学ぶ(5月)		自然教室での生活から規範について学ぶ(5月)
3-3年							
3-4年							
3-5年							
3-6年							
4-1年			十進位取り記数法を基にして考える(6月)				
4-2年							
4-3年							
4-4年							
4-5年							
4-6年							

学校としてどのような児童生徒を育成するのかを明らかにする

- 教育関係法規の規定, 時代や社会の要請や課題, 教育行政の重点施策
- 学校や地域の実態と課題, 教職員や保護者の願い
- 児童生徒の実態と課題

基本的把握事項

- 教育基本法、学校教育法、思いやりあふれる〇〇県、など
- 核家族が多い、地域コミュニティが発展途上
- 人との豊かな関わりをもたせたい、思いやりの心を育みたい

道徳教育の重点目標を明確にする

- 基本的把握事項、学校の教育目標との整合性を図る

道徳教育の重点目標

人間尊重の精神を基盤として、他者との関わりの中で、思いやりの心をもち助け合おうとする態度を育てる。

学校の教育目標

豊かな創造力や実践力をもち人間性豊かな子供を育てる

- 進んで学ぶ子ども
- 思いやりがあり助け合う子ども
- がんばりぬく子ども

道徳教育の重点目標のポイントを明確にする

- 道徳の内容との関わりを明らかにする。

各学年の指導の重点を明らかにする

相手のことを考えて思いやりのある行動ができるようにする

- 道徳の内容 :B 親切、思いやり

道徳科の方針を明確にする

年間指導計画を作成する際の観点や重点目標にかかわる内容の指導の工夫, 校長や教頭等の参加, 他の教師との協力的な指導等を記述。

道徳科以外の指導で、どのような場面でどのように「親切、思いやり」の指導をするのかを検討する。

(指導の方針、内容及び時期)

- 道徳科の特質を生かして、子どもが自分との関わりで道徳的価値について考えられるような授業を展開する
- 各学年ともに「親切、思いやり」を重点として授業を創造する。

学校の全教職員が協力して、学校の道徳教育の重点に関わる具体的な道徳指導を検討しましょう！



道徳科の年間指導計画

道徳教育の全体計画 別業

各教科等の指導を通じて道徳性を養うための視点

(1) 道徳教育と各教科の目標、内容及び教材との関わり

- 各教科等の目標や内容には、子どもの道徳性の育成に関係の深い事柄が直接、間接に含まれている。
- 各教科等において道徳教育を適切に行うためには、まず、それぞれの特質に応じて道徳教育に関わる側面を明確に把握する必要がある。
- それらに含まれる道徳的価値を意識しながら指導することで、道徳教育の効果も一層高めることができる。



(2) 学習活動や学習態度への配慮

- 各教科等では、それぞれの学習場面で活動への取組の姿勢が育まれ学習態度や学習習慣が育てられていく。
- 子どもが伸び伸びとかつ真剣に学習に打ち込めるよう留意し、学級の雰囲気や人間関係に思いやりがあり、自主的かつ協力的なものになるよう配慮する。
- 学習態度の習慣化が必要になる
 - ・ 話し合いの中で自分の考えをしっかりと発表し、友達の意見に耳を傾けること
 - ・ 各自で、あるいは協同して課題に最後まで取り組むこと

⇒ 各教科等の学習効果を高めるとともに、望ましい道徳性を育てることにもなる。

(3) 教師の態度や行動による感化



- 教師の言葉や子どもへの接し方などは、子どもの道徳性が養われるよりよい学級の雰囲気や環境をつくとともに子どもの人格の形成に直接、間接に影響をもつ。
 - 教師の授業に臨む姿勢や熱意は、授業中の様々な態度や行動となって現れる。
- ⇒ 子どもの態度や行動にも反映し、学級の雰囲気をつくる。

例 ・ 真理を学ぶことへの姿勢は、教師の姿から学ばれることが多い。

⇒ 教師の探究心や真理に対する謙虚さが、子どもの実践意欲を触発するからである。

- ★ 教師は、授業内容の指導に力を入れると同時に、道徳の目標や内容に示されている精神を自らが授業の中で実践するよう心掛ける必要がある。



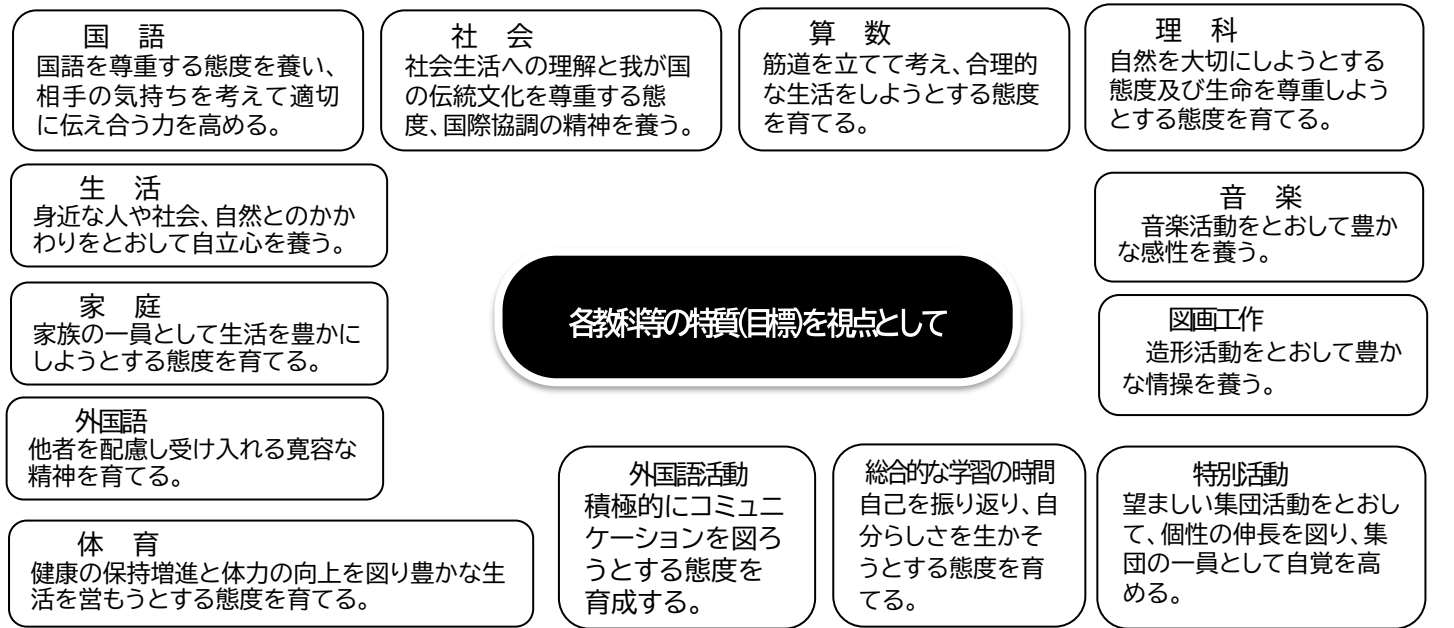
学校における道徳教育の全体像



主として実践の指導

内面の育成

学校の教育活動全体を通して行う道徳教育



各教科等の特質(目標)を視点として

日常の生徒指導をおして



- 子どもが登校してから下校するまで
- プラス面をよりプラスに、マイナス面をプラスに
- 即効性を求める

道徳科

- 週1時間の授業で
- 子どもが将来で会うであろう様々な場面で主体的に道徳的な行為ができるように
- 即効性を求めない

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、

物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



道徳的価値

■よりよく生きるために必要とされるもの ■人間としての在り方や生き方の礎となるもの

学校教育では、これらのうち発達の段階を考慮して、子ども一人一人が道徳的価値観を形成する上で必要なものを内容項目として取り上げている

子どもが将来、様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うために道徳的価値の意義やその大切さの理解が必要

道徳的価値の理解

- 人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること（価値理解）
- 大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること（人間理解）
- 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の考え方、感じ方は多様であるということを理解すること（他者理解）



道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。

- 道徳的価値の理解のための指導をどう行うかは、授業者の意図や工夫による
- 自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うには、道徳的価値について理解する学習は不可欠

特定の道徳的価値の絶対視 道徳的価値のよさや大切さの観念的な理解

児童が道徳的価値を実感を伴って理解できるようにすることが重要

- 道徳的価値の理解を図るには、子ども一人一人がこれらの理解を自分との関わりで捉えることが重要
- 人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を自分事として考えたり感じたりすることが大切

自己を見つめる

これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、更に考えを深めること



- 自己を見つめる学習を通して、子どもは、道徳的価値の理解と同時に自己理解を深める
- 子ども自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるようになる
- 道徳科の指導では、子どもが道徳的価値を基に自己を見つめることができるような学習を通して、道徳性を養うことの意義について、子ども自らが考え、理解できるようにすることが大切
- 道徳的価値を含んだ事象や自分自身の体験などを通して、そのよさや意義、困難さ、多様さなどの理解

物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える

第1章総則の第1の2に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、

道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、

物事を多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。（中学校；広い視野から）



道德性を養うためには

- ・子どもが多様な考え方や感じ方に接することが大切
- ・多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められる

物事を多面的・多角的に考える学習

子どもは、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、更に自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育む

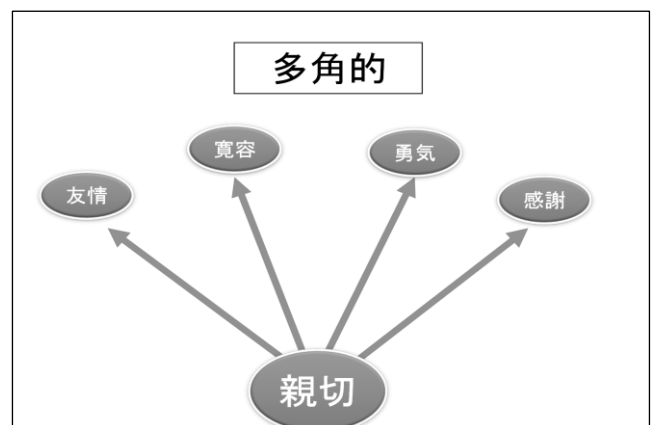
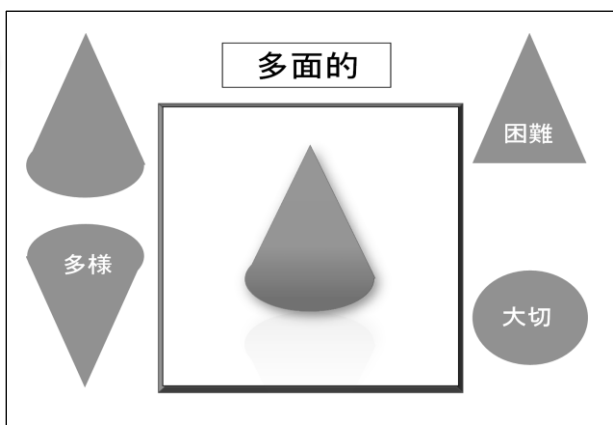
→ 道德的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるという道德的価値の自覚を深める過程で、道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われる。

→ その中で、自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにすることが大切

■ 物事を一面的に捉えるのではなく、子ども自らが道德的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切

例) 発達の段階に応じて二つの概念が互いに矛盾、対立しているという二項対立の物事を取り扱うなど、物事を多面的・多角的に考えることができるよう指導上の工夫をすることも大切

例



自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

第1章総則の第1の2に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、
道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、
物事を多面的・多角的に考え、**自己の（人間としての）生き方についての考えを深める**学習を通して、
道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。（中学校；広い視野から）



- 子どもは、道德的価値の理解を基に自己を見つめるなどの道德的価値の自覚を深める過程で同時に自己の生き方についての考えを深めているが、特にそのことを強く意識させることが重要
- 子どもが道德的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道德的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすることが大切
- 道德的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起したりすることができるようにするなど特に自己の生き方についての考えを深めることを強く意識して指導することが重要

人間としての生き方についての考えを深める

- 人間としての生き方：人間は、自らの生きる意味や自己の存在価値に関わることについては、全人格をかけて取り組むものである。人としてよりよく生きる上で大切なものは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて、時には悩み、葛藤しつつ、生徒自身が、自己を見つめ、「人間としての生き方を考える」ことによって、真に自らの生き方を育てていくことが可能となる

- 子どもが道德的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする
 - 他者の多様な考え方や感じ方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする
 - これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方、人間としての生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする
- 道德科では、自己の生き方についての考えを深める学習を、子どもの実態に応じて計画的になされるように様々な指導を工夫することが必要



- ☒ 教師の一方向的押し付け
- ☒ 単なる生活経験の話合い
などに終始しないように特に留意し、相応の指導の計画や方法を講じ、
指導の効果を高める工夫をすることが大切
- 長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ、
道德的实践につなげていくことができるようにすることが求められる

道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる

□ 道徳的判断力

それぞれの場面において善悪を判断する能力。人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し，様々な状況下で人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。的確な道徳的判断力をもつことによって，それぞれの場面において機に応じた道徳的行動が可能になる。

□ 道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り，善を行うことを喜び，悪を憎む感情。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情。道徳的行動への動機として強く作用するもの。

□ 道徳的実践意欲と態度

道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性

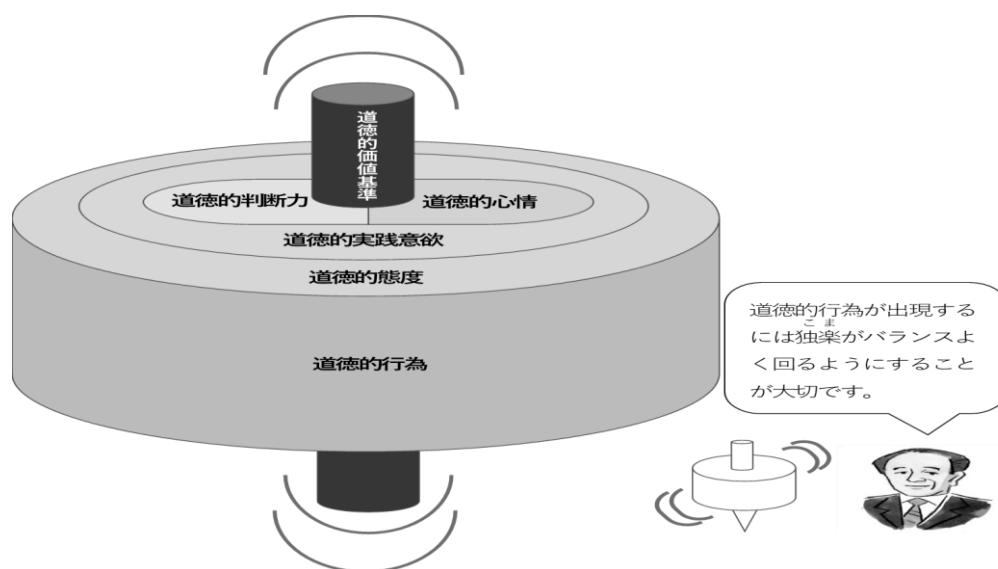
・ 道徳的実践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

・ 道徳的態度，

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行動への身構え

道徳性の諸様相には，特に序列や段階があるということではない。一人一人の児童が道徳的価値を自覚し，自己の生き方についての考えを深め，日常生活や今後出会うであろう様々な場面，状況において，道徳的価値を実現するための適切な行動を主体的に選択し，実践することができるような内面的資質を意味している。



多様な方法を取り入れた指導

児童（生徒）の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらい^①に即して、問題解決的な学習^②、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。

① 問題解決的な学習

道徳科における問題 → 道徳的価値に根差した問題（単なる日常生活の諸事象ではない。）

- 問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を追求し、多様な考え方や感じ方を基に学べるようにするためには、指導方法の工夫が大切
- ➔ ○ 自分の体験やそれに伴う考え方や感じ方を基に自分なりの考えをもち、友達との話合いを通して道徳的価値のよさや難しさを確かめるような問題解決的な学習が考えられる
- 教師と子ども、子ども相互の話合いが十分に行われることが大切、教師の発問の仕方の工夫などが重要
- 話合いでは学習形態を工夫することもでき、一斉による学習だけでなく、ペアや少人数グループなどでの学習も有効
- 問題解決的な学習を行う場合には、その課題を自分との関わりで見つめたときに、自分にはどのようなよさがあるのか、どのような改善すべきことがあるのかななどを、考え、話し合うことを通して、子ども一人一人が課題に対する答えを導き出すことが大切。
- 話し合う場面を設定すること、ペアや少人数グループなどでの学習を導入することが目的化してしまうことがないよう指導の意図に即して、取り入れられる手法が適切か否かをしっかり吟味する必要がある



② 道徳的行為に関する体験的な学習

- 実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考える
- 相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりする



読み物教材等の活用

- その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習
- 単に体験的行為や活動そのものを目的とするのではなく、体験的行為などを通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要



学習状況や道徳性に係る成長の様子の継続的な把握

■ 道徳科の評価の基本的態度

◇ 児童生徒の成長の様子を把握することを基本。数値評価を行わないことは従前と同様。

(新)児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

(旧)児童(生徒)の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。

道徳科のねらいは道徳性を養うことであるが、道徳性が養われたか否かは、容易に判断できない。

道徳性を養うべく指導を行った以上、その指導について子どもたちがどうであったのかを評価を行うことは必要不可欠

道徳性を養うための学習活動を行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握して評価することが求められる

学習状況の把握

道徳科における子どもの学習状況を把握するためには、

授業者が授業で一定の道徳的価値についてどのように考えさせるのか、明確な指導観をもって授業を構想することが重要

子どもたちにとっては何をどのように考えるのか、これが具体的な学習であり、この学習の有り様が学習状況ということ

例



子どもたちが教材の中の登場人物に自我関与して、友達と互いに高め合うことよさを考えさせたい

評価の視点

授業で展開したい学習は、子どもたちが登場人物と自分自身を重ねあわせて、友達同士が高め合うことよさについて考えているか

例

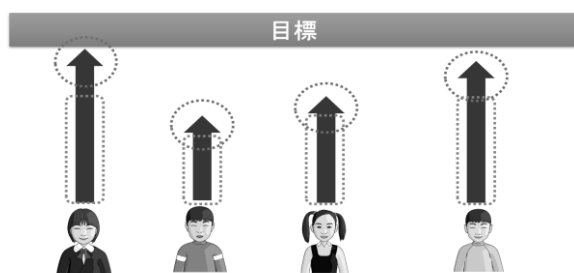


節度を守って行動することは大切なことではあるが、ついでを過ぎしがちな人間の弱さを考えさせたい

評価の視点

授業で展開したい学習は、子どもたちがついでを過ぎしがちな人間の弱さを考えているか

学習状況の把握



子どもの目標に対する実現状況 () を評価するのではなく、目標に向けてどのように学習したかという学習状況 [] を把握することが求められる。

授業者が期待する学習についてその状況を把握することが大前提であるが、これに加えて

- 道徳的価値の理解について登場人物に自我関与して道徳的価値について考えている。
- 対話的な学びを通して道徳的価値の理解を深めている。
- 自己を見つめることについて現在の自分自身を振り返り自らの行動や考えを見直している
- 自己を見つめた上で、道徳的価値についての思いや課題を培っている
- 多面的・多角的に考えることについて道徳的価値を様々な側面から考察したり、関連

道徳性に係る成長の様子 of 把握

道徳性の成長の様子ではない。

道徳性を養うために行う学習の様子がどのように成長しているのかを把握すること

具体的には、

- 一人一人の子どもが道徳的価値の理解に関してどのような成長が見られるのか、
- 自己を見つめることに関してどのような成長が見られるのか
- 物事を多面的・多角的に考えることに関してどのような成長が見られるのか、
- 自己の生き方についての考えを深めることに関してどのような成長が見られるのかということ

道徳的価値の理解

道徳的価値の理解について、親切は大切なことだと観念的な理解をしていた子ども



自分自身の経験やそれに伴う感じ方、考え方を基に自分事として理解できるようになった

自己を見つめる

単に経験だけを想起していた子ども



経験に伴う感じ方、考え方も合わせて振り返れるようになった

物事を多面的・多角的に考える

一面的な見方から



多面的な見方ができるようになったこと

自己の生き方についての考えを深める

道徳的価値に関わる思いや課題がやや漠然としていた子ども



現在の自分自身の自覚に基づいて考えを深めるようになったこと

1時間1時間の授業を着実に積み上げ、学習状況を把握していくことが大前提になる。

なお、このことは、毎時間、すべての子どもの学習状況を詳細に把握するというではない。

3 道徳科における評価の留意事項

- 数値による評価ではなく、記述式であること。
- 他の子どもとの比較による相対評価ではなく、子どもがいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと。
- 他の子どもと比較して優劣を決めるような評価はなじまないことに留意する必要があること。
 - 学習指導過程における指導と評価を一体的に捉えることが重要
 - 学習指導過程の評価には具体的な観点が必要

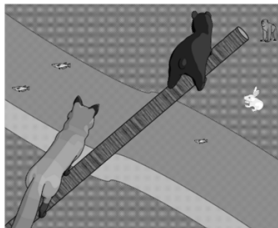
確かな指導観を基に、明確な意図をもって指導や指導方法の計画を立て、学習指導過程で期待する児童の学習を具体的な姿で表したものが観点となる。

道徳科の評価の手順(例)



子供の実態などから、今日の授業では、親切のよさや温かさを考えさせよう！

指導観



オオカミに自我関与して、クマに親切にされたときの思いを基に親切のよさを考えさせよう！

指導の意図

子供たちはオオカミと自分自身を重ね合わせて親切のよさを考えているかな？

学習状況の把握



Aさんは、オオカミと自分自身を重ね合わせて、親切のよさについて発言してたな。



学習状況

「はしの上のおおかみ」の学習では、親切のよさや温かさを自分事として考えていました。



Bさんは、親切のよさを自分事として考えられなかったようね。



授業改善

次の時間では自分事として考えられるように言葉かけをしよう！



今日は登場人物と自分自身を重ねて道徳的価値について考えられた！



学習状況

「きいろいベンチ」の学習では、みんなで使う物や場所について自分事として考えていました。

道徳的価値について自分との関わりで考えることができるようになりました。

成長の様子

■ 子どもたちが個々の道徳的価値についてどのような学びをしたかを詳細に分析して把握することよりも、よりよく生きることにつながる学びを鳥瞰することが大切である。

- 「木を見て森を見ず」ということにならないように留意する。
 - 毎時間の授業で、全ての子どもの学習状況を綿密に把握するという事は困難であるが、授業者が明確な指導観に基づいて行うべき学習を明らかにすることで、そのことが評価の視点となる。
 - その視点で子どもの学習状況をみることで顕著な発言やつぶやき、活動などを把握することはできる。
 - 顕著な姿が見られた子どもについてはそのことを学習状況として記述することができる。
 - 顕著な姿を見ることができなかった子どもについては、次の授業で生き生きとした学びができるように手立てを講ずる。
- 発達障害等の子どもについての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有すること。



次のような記述は適当でしょう

【1学期】	2年1組	13番	氏名	帝京学
【特別活動の記録】				
学級活動	生き物係			
【特別の教科 道徳】				
「はしの上のおおかみ」の学習を通して、相手の気持ちを考えて行動しようとする心情が育ちました。				
【生活科の記録】				

「心情が育ちました」は道徳性の評価です！

【1学期】	2年1組	13番	氏名	帝京学
【特別活動の記録】				
学級活動	生き物係			
【特別の教科 道徳】				
「黄色いベンチ」の学習でしっかり考えたことから、毎日きまりを守ろうとする姿が見られるようになりました。				
【生活科の記録】				

授業における学習状況の記述になっていません！

表彰式

子ども一人一人に金メダルをあげるイメージです。



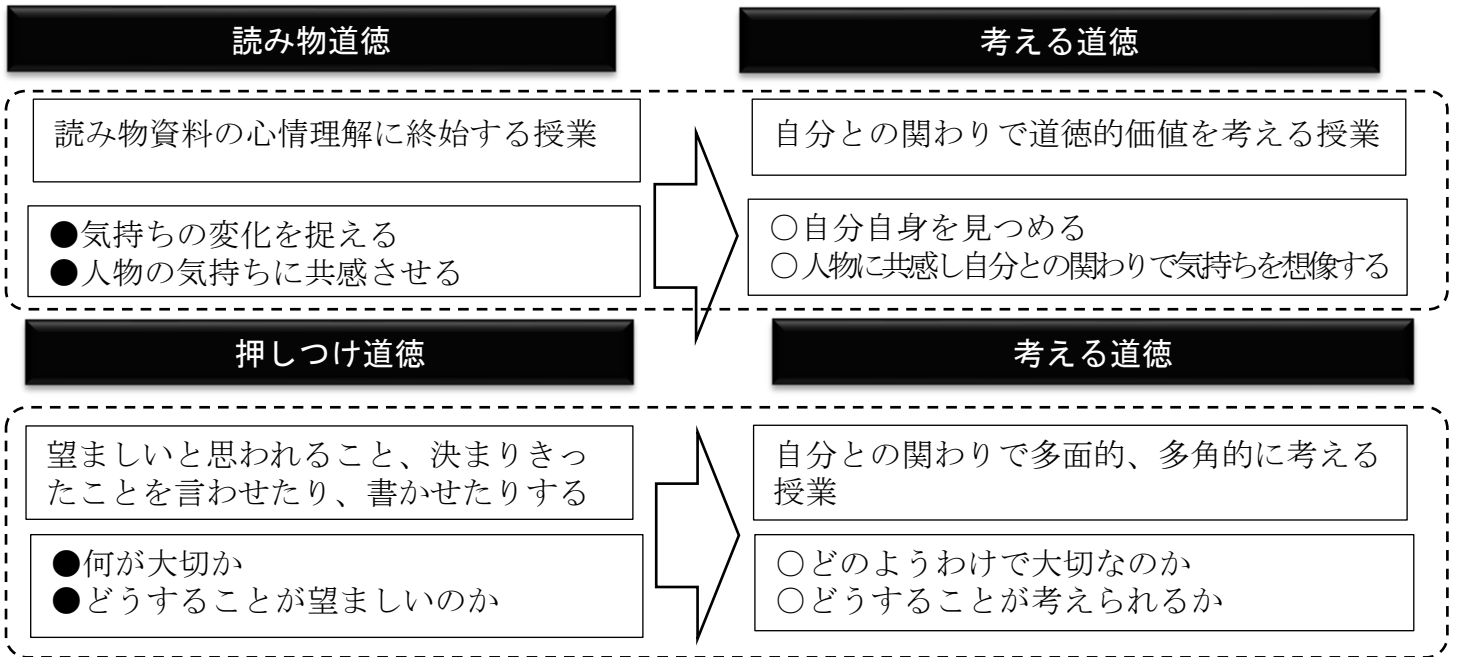
- 子どもが人間としてよりよく生きたいと思う記述を！
- 自分のよさをより一層伸ばしたいと思えるような記述を！
- 自分のことをじっくりと見つめたいような記述を！



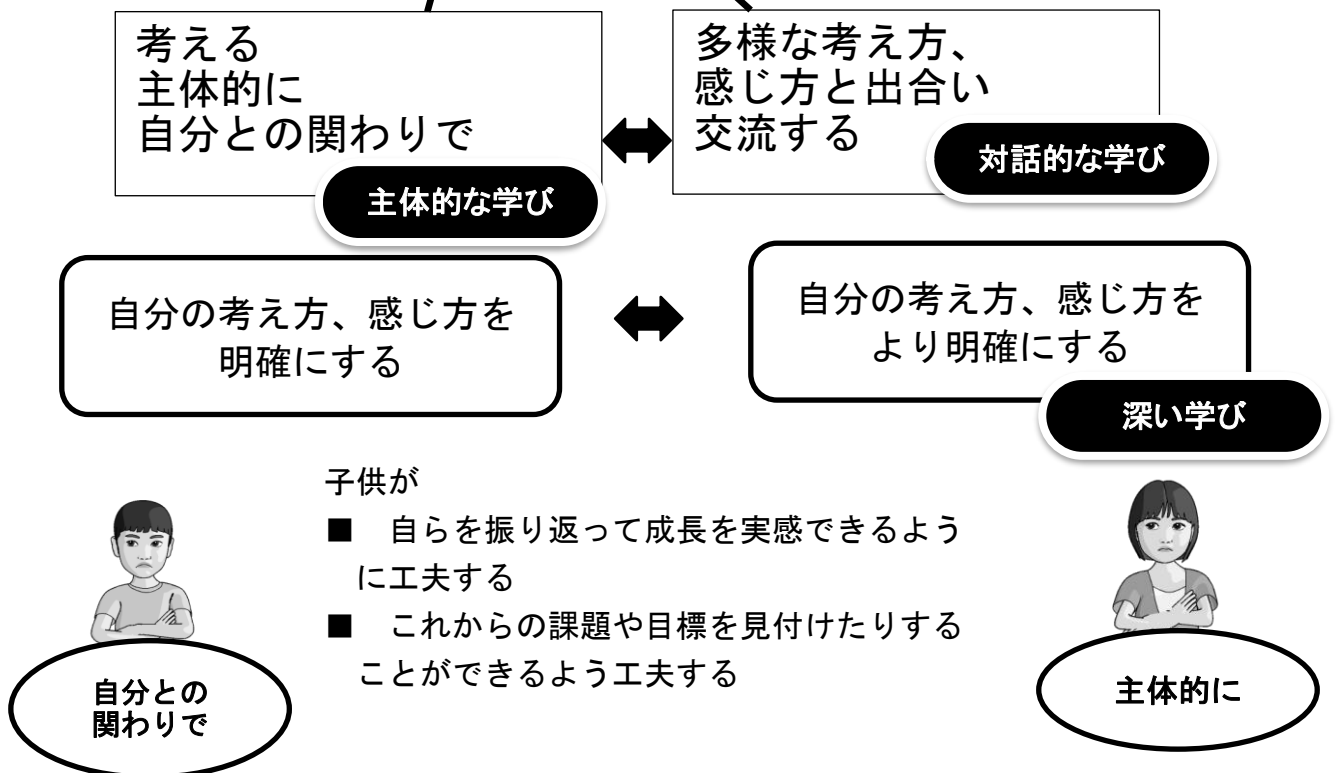
道徳科の評価はルーチンではないですね！教育指導です！



考え、議論する道徳授業の構想



考え、議論する道徳



道徳性を養うことの意義について、子供自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにする

道徳科授業マネジメント —明確な指導観に基づく授業の創造—

「明確な指導観」をもつとは… : 主題設定

1 ねらいとする道徳的価値（内容項目）について、学習指導要領に基づき、明確な考えをもつ。

価値観

2 授業者の明確な価値観に基づくこれまでの指導と子供の学び、よさや課題を明確にし、本時の方向性を示す。

児童生徒観

3 授業者の明確な価値観、本時の方向性を基に、教材の活用の仕方を明らかにする。

教材観

指導観

これまでの子供のねらいとする道徳的価値に関わる学びとその結果を明確にする
その上で、自分との関わりで考えられる授業を構想し、実践する。

